

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 横山 日向 水野 宿谷 森戸 寺島 丸山 越後 井上
(染谷) (磯岡) (櫻井) (田中)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3人	10人	人	人	人

前回の改善計画	
① まだ慣れない方への「共感的理解」がどうあるべきか、職員同士で音合わせを行う。 ② 新しく利用が始まる際や、サービス形態が変わる際に、ご家族などからの情報収集のための書式を検討する。 ③ 口頭での情報伝達に頼りすぎず、文書で申し送ってゆくことを意識するとともに、初期のかかわりには特に、些細なことでもメモを残して情報共有してゆくことを意識的に行う。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
①はおおむね達成できている。②はお泊りの際の情報シートなど一部で導入した。今後、汎用的に使える書式を引き続き検討してゆく。③については、特にメモ(記録)に残しての情報共有について引き続き努力をしてゆく。	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	5	5	1		11
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	3	10			13
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	7	6			13
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	2	8	3		13

できている点
新規受け入れの際も、ケアマネによるアセスメントの情報を、他の職員にも事前に申し送りが出されている共通の話題やそれまでの生活歴などの情報から新規の方が入りやすい雰囲気づくりに努めている 送迎時の家族とのコミュニケーションや家族へ対する訪問を行っているのが虹の家の強み 不足する情報は折に触れて電話などをして補っている 地元の人が多いので新しい人も入りやすい

できていない点
送迎がないと家族からの情報が入らない(独居の方など) 時間が限られた勤務体系のスタッフには情報共有のフォローアップ体制が必要 他者とのコミュニケーションが苦手な心を開いてくれない方への配慮 本人・家族のニーズをどこまで把握するか、どこまで応えるべきか、組織としての共通認識が必要

次回までの具体的な改善計画
新しく利用が始まる際や、サービス形態が変わる際に、本人や家族から情報収集をするために有効な汎用的な書式を引き続き検討してゆく。 口頭での情報伝達に頼りすぎず、文書で申し送ってゆくことを意識するとともに、初期のかかわりには特に、些細なことでもメモを残して情報共有してゆくことを意識的に行う。 初期の関わりの際は、本人・家族とも事業所にどこまで求めているのか戸惑うケースも見られる。組織としてどこまで行うのか(どこまでできるのか)を職員同士で音合わせしてゆく

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017/11/4

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 横山 日向 水野 宿谷 森戸 寺島 丸山 越後 井上 (染谷) (櫻井) (田中)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	11人	1人	人	人

前回の改善計画

① どの利用者にも等しく配慮がいきわたるよう、特定の職員だけでなく、多くの職員が多くの利用者に関われる体制づくりを続けてゆく。
 ② 長期目標に向けて統一感のある支援を実施してゆくために、きめ細かい観察と、その結果得られた情報を共有、集約するよう意識してゆく。
 ③ 本人、ご家族との意見のすり合わせのためにも、事業所としての立ち位置を明確にし、柔軟な発想から最適な支援の在り方を職員みんなで追究してゆく。

前回の改善計画に対する取組み結果

①および③については多くの職員が意識的に取り組むんだり、職員同士で相談をしながらチームとして支援に当たることができた。②については情報の共有、集約、分析の方法をさらに研ぎ澄ませてゆきたい

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?		9	3		12
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		11	1		12
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?		7	5		12
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?		9	3		12

できている点

サポートプランや介護委員会でのカンファレンスを通じ、利用者の現状を的確に振り返り、支援に活かすことが出来ている。短期目標については日々の活動の中に取り入れほぼ達成できている
 地域での独居生活を可能にしている点は素晴らしい。

できていない点

本人が望んでいる暮らしと家族が望んでいる暮らしの不一致 (たとえば買物) にどう対処すべきか
 利用者さんは虹の家へ来たいわけではなくこれまで通りの生活がしたいだけ、職員はそこへ思いを致し、「虹の家に通ってくればよし」という発想から抜け出すべき
 長期目標の把握やそれに寄り添った支援は難しい
 医療・看護面でのかかわりを重視した結果、本人の人生目標の把握は不十分だった気がする

次回までの具体的な改善計画

本人の日常生活の困りごとを、なんでも虹の家で賄うという発想はやめ、本人が持つ強み (地域・家族との関係なども含む) を分析したうえで、自宅での暮らしを継続できるよう、地域のインフォーマルな資源にも注目しながら、柔軟な発想で支援する。
 長期目標に向けて統一感のある支援を実施してゆくために、きめ細かい観察と、その結果得られた情報を共有、集約するよう意識してゆく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 11 月 11 日

3. 日常生活の支援

メンバー 染谷、宿谷、森戸、高橋、戸松、井上、横山
(日向 寺島 水野 丸山 田中 桜井 越後)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	6人	2人	14人

前回の改善計画	
① 変化にすぐ気づける人と気づけない人の差は、情報量の差ともいえる。勤務の少ない職員でも、情報が洩れなく把握できるよう、何度も申し送ってゆくことを意識する。	
② 個々の情報の積み重ねが大きな判断材料になってくると意識のもとに記録を残すことと、センター方式を活用し、全ての職員が利用者さんの「以前の暮らし方」を把握できていることを目標とする。	
③ 本人の気持ちや体調の変化への気づきにはデリケートな部分もあり、共有の方法によっては本人の尊厳を傷つけてしまう場合もある。ほかの利用者さんのいる前では利用者さんの情報のやり取りを行わないことを引き続き徹底してゆく。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
① については情報の申し送りを意識的に行っている。②については昨年度よりも前進できた。③についてはあまり行えていない。本人の尊厳を最優先に心掛けたい。	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		2	7	5	14
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	3	9	1	1	14
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?		8	4	2	14
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	4	9		1	14
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	1	10	2	1	14

できている点
気づきを他のスタッフに伝え、適切に申し遅れている。本人の感情に配慮し、リズムに合わせ、居心地の良い関わり方ができている。利用者さんをよく観察し、こちらの都合を押し付けることの内容配慮できている。その人に合った振舞い方が出来ている。

できていない点
日々変化が激しい人については、対応が追い付けない。 先入観を持って関わってしまう。入職から間がなく一人ひとりの以前の暮らし方の把握はできていない

次回までの具体的な改善計画
全てのスタッフにより適切な考動を促すため、申し送りは丁寧に行うとともに、スタッフ個々が「気づきの感度」をあげられるよう意識する。「以前の暮らし方」を把握することで様々な打ち手ができることがこの一年で実感できた。引き続き収集に努める。本人の気持ちや体調の変化への気づきにはデリケートな部分もあり、共有の方法によっては本人の尊厳を傷つけてしまう場合もある。ほかの利用者さんのいる前では利用者さんの情報のやり取りはせず、また、スタッフは過剰反応せず常に冷静な対応を心がける。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 11 月 11 日

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 染谷、宿谷、森戸、高橋、戸松、井上、横山
(日向 寺島 水野 丸山 田中 桜井 越後)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	8 人	4 人	2 人	14 人

前回の改善計画
リスクを心配するあまり過剰な支援になってしまうとご本人の自立を阻害する事にもなるし、ご家族も主体性を持って介護に関われなくなってしまう。個別性に重点を置き、その人に合ったオーダーメイドサービスを心掛けるとともに、ご家族やご近所への接点を介護職個々が意識してゆく。

前回の改善計画に対する取組み結果
利用者さんの状況を適切に判断することで、自己決定を促し、自立支援につながる関わりができるようになってきた。ご家族やご近所への接点を意識する視点は、引き続き努力を要する。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		4	9	1	14
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?		6	5	2	13
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		5	4	5	14
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	1	5	1	7	14

できている点
自立、自律を意識した支援を心がけている。
その人に合ったサービスを心がけている。

できていない点
利用者さんの日頃の様子をどこまで把握しているか(例えば、日中ひとりで散歩しているのを発見した場合など)で、人によって対応が違っている。
地域のインフォーマル資源を知らない。関わる機会がない。

次回までの具体的な改善計画
本人からでなく、ご家族からの情報収集も大切。ご家族をケアチームの一員として迎えるためにも家族からの情報収集を重視してゆく。ご近所の力をこれまで以上に有効活用するにはスタッフ個々が把握している情報を共有する必要があるため「軒下マップ」の作成を進める。
見守りネットなど地域のインフォーマル資源をスタッフ個々が活用できるよう意識してゆく。
地域から利用者さんに関する情報がもたらされた際にも、地域とつながるチャンスととらえ、本人の状況や虹の家のスタンスを積極的に発信してゆく

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017/11/25

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 横山 日向 染谷 宿谷 森戸 丸山
高橋 戸松 (越後) (寺島) (田中)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	3人	8人	人	11人

前回の改善計画
利用者さんを取り巻く「地域資源」をうまく活用し、これまで暮らしの継続性を意識して事業所が抱え込まない支援体制を築いてゆくとともに、介護職員が余裕のある環境で仕事ができるよう、引き続き人員確保に努める。
前回の改善計画に対する取組み結果
「地域資源の活用」という視点は職員の中に浸透しつつあるが、職員間で意識の差が大きい。人員確保で職員を増員できたが、利用者の数も増えたため余裕のある環境の実現には至っていない場面も見られた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?		4	7		11
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	2	6	3		11
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	2	9			11
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	3	8			11

できている点
一部の利用者さんについては地域の資源の有効活用が出来ている。 複数のスタッフの観察によりきめ細かい気づきや早い対応が実現している。 臨機応変に柔軟多対応が出来ている。

できていない点
利用者さんのご近所づきあいや以前の暮らしの継続という視点では適切でないケース(つながりを切りかかないケース)が一部にみられる。 ご近所の方とつながれていない。

次回までの具体的な改善計画
「地域資源の活用」をすることで、利用者さんの自発性や以前の暮らしの継続が可能となり、より質の高い支援が実現できるという意識を多くの職員に持ってもらう。 柔軟な支援が可能で小規模多機能の利点を生かすため、利用者さん本位のサービス提供を各自が心がける。 気づきを共有できるよう意識的に記録に残してゆく努力をする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017/11/25

6. 連携・協働

メンバー 横山 日向 染谷 宿谷 森戸 丸山
高橋 戸松 (越後) (寺島) (田中)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	2人	3人	4人	9人

前回の改善計画	前回同様、外部との連携は一部職員に集中する傾向にあり、職員個々が積極的に関わられる状態にはない。コミュニティーケアや地域包括ケアを推進するために、研修への参加などを通じて、職員個々の意識改革を引き続き促してゆく。
前回の改善計画に対する取組み結果	外部との連携により多くのスタッフが関わってもらうために、当該スタッフが外出中でも業務に支障が出ないよう人員を増員した。その結果、昨年度よりは多くのスタッフに外部との連携の機会に参加することができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？		1	2	6	9
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	2	1	2	5	10
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	2	1	5	3	11
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	4	4	3		11

できている点	文化祭、避難訓練、お祭りなど、地域の行事やイベントに積極的に参加している。去年に比べ、外部の団体の活動へ参加する機会や関わるスタッフの数が増えた。
--------	---

できていない点	どんな会議がいつ行われているか、そもそも知らない。声をかけてもらわないと、自らが進んで参加するのは気が引ける。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	文化祭、避難訓練、お祭りなど、地域のイベントには引き続き参加するが、より主体的なかかわりができるようプロジェクトチームで検討を進める。地域で行われている会議に積極的に参加できるような仕掛けを導入する。コミュニティーケアに関する研修などに積極的に参加できる体制を心がける。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017/12/2

7. 運営

メンバー 横山 日向 染谷 宿谷 丸山 高橋
磯岡 寺島 (水野 越後 井上 田中)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	4人	6人	人	10人

前回の改善計画

引き続き、職員個々の意見の丁寧な吸い上げを図り、共感や承認の姿勢を職員同士が持つことで、積極的に意見を言える雰囲気づくりに配慮する。
利用者、家族・介護者、地域の方からの意見や苦情は、迅速に対処しなければならない問題であり、そのような情報もたらされた場合は、どんな些細な情報でも確実に共有できるよう取り組む。さらに、相手からの意見や苦情が上がる前に、こちらが心配りできるよう対応力の強化に着手するとともに、気軽に意見を言ってもらえるよう、職員個々が地域との連携を意識してゆく。

前回の改善計画に対する取組み結果

積極的に意見を言える雰囲気づくりに取り組んだ。
意見や苦情は月一回の介護委員会の席で共有するようにしている。また、意見や苦情が入る前にこちらできくばりができるよう、「気づきカード」を導入した。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	1	3	7	2	12
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?		10	1	2	12
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?		7	2	4	12
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	3	3	5	2	12

できている点

地域（見守りネット、自治会、ふらりえ、近隣住民ほか）と協働した取組みに積極的
小規模多機能の運営方法について、よく理解できている。

できていない点

地域との協働は、シフトに入っていると余裕がなくてなかなか気が回らない。
利用者になる前の本人と地域のかかわり（近所づきあい）についてもっと関心を持つべきだと思った。
入職して間もないので、運営に意見を言うのはまだ気が引ける。

次回までの具体的な改善計画

キャリア、経験、年齢などにとらわれず、事業所の運営に積極的に意見が言えるように職員に促すと同時に、意見の言いやすい雰囲気を作ってゆく。
地域の関心のある層と繋がれるような企画を開催する。
余裕のあるシフトを組んで、地域との連携をしやすい環境を整えるとともに、シフトに入っていないながらも地域と関われる工夫・努力をする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017/12/2

8. 質を向上するための取組み

メンバー 横山 日向 染谷 宿谷 丸山 高橋
磯岡 寺島 (水野 越後 井上 田中)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	7人	3人	1人	11人

前回の改善計画
現状では、学習に対する姿勢が積極的な職員と消極的な職員（遠慮がち？）に分かれてしまい、研修への参加状況にも表れてきてしまっている。すべての職員に、なるべく平等に学びの場を提供する体制を作るとともに、必要な研修は計画的・体系的に実施する。

前回の改善計画に対する取組み結果
介護職のための地域連携ケア研修が我孫子市で実施されることを受けて、多くの職員に参加してもらうことができた。その他の外部研修についても、研修計画に基づいて積極的に派遣したが、参加できる職員は限られてしまっている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか		9	1	2	12
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか		4	3	4	11
③	地域連絡会に参加していますか		7	2	3	12
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか		8	3	1	12

できている点
ヒヤリハット（気づきカード）を作成して共有している。
虹の家で行われた研修には参加できている。

できていない点
外部研修にはなかなか参加できない（事前のスケジュール調整が難しい）
入職して間もないため、さを予測して動くことがまだできていない。

次回までの具体的な改善計画
研修計画に基づいて、外部研修への職員派遣を継続して実施するとともに、興味関心のある分野の研修には職員自らが名乗りを上げてもらうよう促す。
研修の効果を高めるため、参加した研修の報告書を作成し、スタッフ間で共有できるようにする。
介護技術向上のためプロジェクトチームを立ち上げ、OJTを中心とした研修計画を作成し実行する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2017/12/2

9. 人権・プライバシー

メンバー 横山 日向 染谷 宿谷 丸山 高橋
磯岡 寺島 (水野 井上 田中)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	10人	1人	人	11人

前回の改善計画	個人の尊厳に最大限配慮した立ち居振る舞いを意識し、丁寧な言葉遣い、相手の立場に立った声かけを職員同士お互いに実施して行く。
前回の改善計画に対する取組み結果	おおむね目標に添った声かけ、立ち居振る舞いが出来ているが、職員の気持ちに余裕がないと、つい自分都合の対応になってしまうことがある。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	7	4			11
②	虐待は行われていない	10	1			11
③	プライバシーが守られている	2	9			11
④	必要な方に成年後見制度を活用している		1	2	6	9
⑤	適正な個人情報の管理ができています	3	8			11

できている点	虐待や身体拘束は行わず、利用者さんの尊厳が守られている。法に則って適正に運営されている。個人情報については伏字にして配慮している。個人情報が記載された資料等は外部に流出しないようシュレッダー処理している。
--------	--

できていない点	成年後見制度は活用できていない
---------	-----------------

次回までの具体的な改善計画	個人の尊厳に最大限配慮した立ち居振る舞いを意識し、丁寧な言葉遣い、相手の立場に立った声かけを職員同士お互いに実施して行く。 見守りネットワークや運営推進会議など、外部の情報共有者とも個人情報や尊厳に配慮した情報共有を心がけてゆく
---------------	---

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 虹の会	代表者	理事長 横山耕太	法人・ 事業所 の特徴	「誰もがその人らしい暮らしを地域の中で」をスローガンに、介護が必要になってもできるだけ長く地域に住み続けたい、誰もが地域でふつうに暮らし続けたいという願いを実現できるように、個々のニーズに応じて適切なサービスを提供することを通じて、年齢や障害の有無を越えた地域住民の交流の場づくりに寄与します。
事業所名	宅老所 虹の家	管理者	施設長 横山耕太		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	5人	人	人	1人	人	1人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	普段の活動を振り返る場を定期的に持ち、引き続き、丁寧な説明と日ごろからのコミュニケーションに重点を置いてゆく	自己評価を従来の会議の一部で実施するのではなく、別途予定を組んで実施した結果、より深く活動を振り返る場にすることができた。	スタッフが楽しみながらサービス評価を実施している様子があるのは好ましく思います。	サービス評価実施によるスタッフの姿勢統一効果に期待して、引き続きサービス評価の時間を別途組み、来年度は上半期と下半期の計 2 回実施する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の方が気軽に入れるような工夫を具体的に検討する。 ● 虹の会ニュースの近隣世帯への戸別配布を継続実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園でのお祭りの際にトイレの貸し出しをした結果、地域の方との交流、対話が生まれた。 ● 虹の会ニュースの戸別配布範囲を松風苑や近隣のお店にまで広めた結果、新たな問い合わせや反応があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 次回お祭りをやる時にも、ぜひ同様の取り組みをお願いします。 ● 虹の会ニュースは内容も年々充実してきている。まことに結構です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園でのお祭りには実行委員会から参加し、出店や企画への参画などより積極的に関わる。 ● 虹の会ニュースの戸別配布継続実施と内容の充実
C. 事業所と地域のかかわり	● 利用者さんの暮らしを、虹の家だけでなく地域全体で支えてゆく意義を職員に伝え意識改革を促すために「地域とのかかわりの視点」についての研修を継続実施する。	● 今年度は小規模多機能事業者の全国大会が千葉県で開かれることもあり、多くの職員を派遣して引き続き意識改革に努めた。	● 地域の様々な団体に虹の家がこれまで以上に積極的に関わってくれることを期待します。	● 独居の利用者さんの支援を地域の方とともに考える「軒下会議」の開催を通じてインフォーマルケアネットワークの充実を図る。また、職員に対して地域との関わりの視点に関する研修を継続実施する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	● 地域会議、見守りネット、ふらりえなど地域の様々な組織や催しへの参加を多くの職員にも積極的に関わりを強める。	● 地域会議には職員を継続派遣した。見守りネット、ふらりえにも職員を派遣できるよう先方との協議を行った。		● 見守りネット、地域会議、ふらりえなど地域の様々な組織へ多くの職員を派遣できる体制作り
E. 運営推進会議を活かした取組み	引き続き、運営推進会議が地域の問題を共有する場として有効に機能できるよう配慮してゆく。	推進委員の先生に地域コミュニティーをテーマにしたミニ講演会をお願いするなど、新しい取り組みを企画・実施した。	地域のために虹の家スタッフの方々にはより精力的に働いてもらいたい。そのためにできることはお手伝いしたく思います。	職員の積極的な参加を促すため、運営推進会議の意義をアピールするとともに内容の充実にも努める。
F. 事業所の防災・災害対策	火災だけでなく、大規模な災害が発生した際に事業所としてどう対処するか具体的に検討する。	大規模災害が発生した際の地域への貢献のため、災害支援自販機を設置した。		地域資源の活用を意識しながら勉強会や訓練を実施する。

